

質問

6 番議員 川北 芽紅

標 題 沼津駅南口のまちづくりについて

沼津駅南口のまちづくりについて質問します。

沼津には、様々な観光スポットが点在しておりますが、中でも県内外から多くの観光客が訪れる場所が沼津港だと認識しております。

昨年3月から沼津駅南口と沼津港を結ぶEVバスの運行がスタートし、ゆったりと沼津港までの道中を楽しめるようになりました。

しかし、一方で沼津駅南口の商店街を経由することが減り、商店街をはじめとする中心市街地から足が遠のいてしまうことが懸念されます。

商店街から沼津港までの新たなルートのPRの他、多くの人々が沼津に住みたくなるような魅力的なまちづくりについて、現在の市の取組と今後の方針についてお聞かせください。

回答

沼津駅南口のまちづくりについてお答えします。

沼津市では、鉄道により南北の市街地が分断され、円滑な南北交通や一体となった発展が阻害されていることから、この都市構造の課題を解決するため、鉄道高架事業や土地区画整理事業などの一体的な整備に取り組んでいます。

これらの事業は、総称して沼津駅周辺総合整備事業と呼ばれており、長期間にわたることから、段階的にまちづくりを進めていく必要があります。

そこで、この事業を契機としてヒト・モノの動きが大きく変わるチャンスであることから、「沼津市中心市街地まちづくり戦略」を令和2年3月に策定いたしました。

本戦略は、中心市街地をヒト中心の魅力ある場所へと再生し、多くの市民や来訪者が集い、交流し、住まい、回遊する都市の顔として再構築していくためのまちづくりの方向性を示すものです。

今後、沼津駅周辺総合整備事業の進捗に応じて段階的に道路などの公共空間を車中

心からヒト中心の空間に再編していくことにより、中心市街地を居心地が良く、歩きたくなる魅力的な場所にしていきたいと考えています。

昨年度、このような空間づくりの実現に向けて、市内の高校生も参画して公共空間の様々な活用方法が提案され、これらを踏まえた社会実験を行いました。これからも次世代を担う方々の意見を反映した取組を進めていきます。

また、ヒト中心の社会を実現する方法の一つとして、公共交通の再編をしていく必要があります。沼津駅を中心とした路線網を再編することで、誰もが利用しやすい公共交通にしていくとともに、沼津港などの拠点をつなぐ路線の運行頻度を確保することなどにより、回遊しやすい環境づくりに努めます。

このほか、狩野川に架かる橋のアンダーパスの整備や、自転車走行空間の改善のほか、シェアサイクルのポートを官民連携により設置し、市内の周遊ルートの拡大とアクセス性の向上に取り組んでいきたいと考えています。

沼津市には、沼津御用邸記念公園に代表される奥深く格調高い歴史、文化のほか、年間166万人の観光客でにぎわう沼津港など、他の都市には見られない魅力的なコンテンツが数多くあります。

また、日本一の高さの富士山と日本一の深さの駿河湾、香貫山をはじめとする沼津アルプス、一級河川の狩野川が織りなすダイナミックな景観資源があります。

まちなかでは、空き店舗などを活用したりノベーションまちづくりにも取り組んできたことにより、市内外からの多くの若手起業家の手によるおしゃれなレストランや生活雑貨店といった魅力的な個店が出店するなど、新たなにぎわいも生まれています。

このような沼津市の地域資源を最大限に活用し、魅力あふれるまちにすることで、若い世代を含めた市内外の皆様に、沼津への愛着を持っていただき、訪れたい、住みたい、住み続けたいと思っていただけるようなまちづくりを進めていきます。